

新品種の紹介

多収で直播に適し低コスト生産が可能な水稻新品种「たちはるか」

【業務・加工用向きに育成】

近年、米の需要が低迷していますが、業務用の低価格な米には安定した需要があり、低コスト生産が可能で一定レベルの品質・食味を備えた品種の開発が求められています。こうしたニーズに応えるため、倒れにくく直播向きの「西海飼 253 号」と良食味でいもち病に強い「中部 111 号」を交配して選抜・育成したうるち品種が「たちはるか」です(写真 1)。

【抜群の耐倒伏性、多収性で病気にも強い】

「たちはるか」は、出穂期が「レイホウ」並の晩生種で、栽培適地は暖地および温暖地の平坦部です。最大の特長は、茎が太く移植でも直播でも倒れにくい特性です。この倒伏に強い特性は、祖先の「Lemont」(アメリカの直播用品種)から受けついだものです(図 1)。移植栽培での収量性は「レイホウ」、「ヒノヒカリ」を 20% 近く上回り、直播栽培でも多収です。いもち病の抵抗性遺伝子を 2 個合わせ持っており、葉い

もち、穂いもちともに強い抵抗性を示します。また、ヒメトビウンカが媒介するウイルス性病害の縞葉枯病にも抵抗性です(表 1、図 2)。

【ヒノヒカリ並の食味、酒造掛米にも】

千粒重が 25g 前後のやや大粒で、玄米タンパク質含有率が低いことから酒造用掛米(かけまい)としても利用できます。また、ご飯の食味は「ヒノヒカリ」並に良好です。岡山県の大規模農業生産法人が栽培を始めており、京都府の酒造メーカーが原料米として利用する予定です。需要の多い業務用、加工用向けに多収を活かした低コスト生産が可能で、お弁当や焼酎原料、米粉などさまざまな用途での利用も期待できます。品種名の「たちはるか」は、「直立した草姿を持つ多収・耐病品種で稲作の未来を見通す品種」になることを願い命名しました。

【水田作・園芸研究領域 坂井 真】

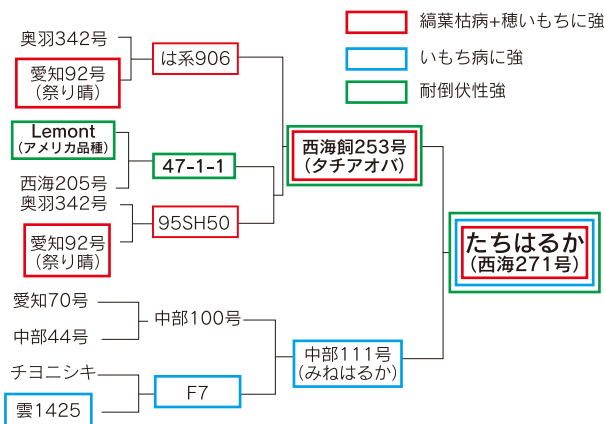


図1 「たちはるか」の系譜図

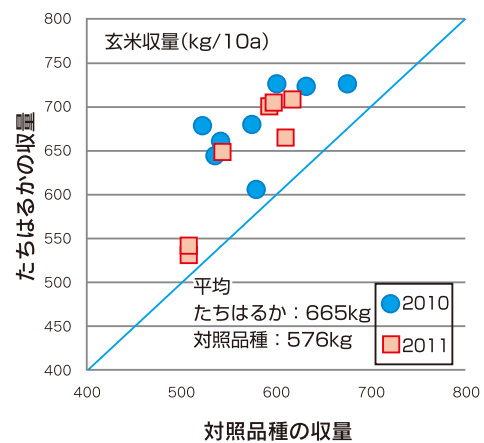


図2 配付先における「たちはるか」の玄米収量

栽培条件	品種名	出穂期 (月・日)	稈長 (cm)	倒伏 (0-5)	玄米重 (kg/10a)	比率 (%)	千粒重 (g)	品質 (1良-9否)	食味 (コシヒカリ基準:0)	玄米タンパク 質含有率 (%)
移植	たちはるか	9.01	83	0.0	630	119	25.3	6.8	-0.07	6.2
	レイホウ	9.02	79	0.3	531	100	23.2	7.3	-	7.2
	あきまさり	9.03	81	0.1	590	111	22.4	4.8	-0.08	6.3
	ヒノヒカリ	8.25	83	0.2	542	102	22.6	6.6	0.05	6.6
直播	たちはるか	9.02	83	0.4	654	106	25.7	6.8		
	あきまさり	8.31	78	1.4	619	100	22.3	4.8		
	ヒノヒカリ	8.29	80	1.9	526	80	22.7	6.2		

品種名	葉い もち	穂い もち	縞葉 枯病	耐倒伏性 移植 直播
たちはるか	強	強	抵抗性	強 強
レイホウ	-	-	感受性	やや弱 -
あきまさり	やや弱	やや弱	感受性	強 やや強
ヒノヒカリ	やや弱	やや弱	感受性	やや弱 やや弱

表1 「たちはるか」の栽培特性

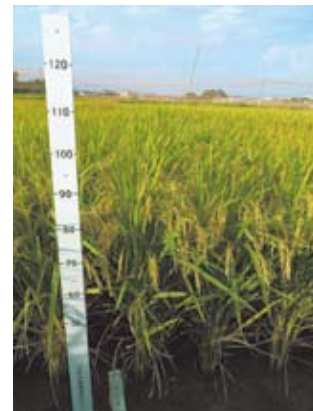


写真1 「たちはるか」の草姿 (移植栽培)